

# オーストラリア語学研修報告書



令和5年度

愛知県立西尾高等学校

## 目次

西尾高校海外研修事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
西尾高校 オーストラリア語学研修・・・・・・・・	2
引率者レポート・・・・・・・・・・・・・・・・	5
生徒レポート・・・・・・・・・・・・・・・・	7

(クラス順)

## 西尾高校海外研修派遣事業

### 概要

平成 25 年度に、政府(外務省)が推進する北米地域との青少年交流の一環として、“KAKEHASHI Project - The Bridge for Tomorrow”が実施されました。本校はこれに参加し、そのプログラムの中の1つである学校交流で、アメリカ・ニューヨーク市にある East-West School of International Studies(EW校)と交流を深めました。この2校が今後、姉妹校のような関係を築いていくとともに、英語あるいは日本語を意欲的に学んでいる高校生たちが、現地を訪問して文化を学ぶ機会を与えられるようにとの思いをこめて、2校間の交流を続けていくことを検討しました。平成26年度に初めて、本校と EW 校が相互に生徒を派遣するという形で独自の交流プログラムを実施しました。平成28年度は7月に EW 校生が来校し、12月には本校生徒が EW 校を訪問しました。その後、平成30年度本校生徒が EW 校を訪問しました。

こうしたアメリカへの海外研修を行う中で、本校にとってよりよい海外研修の在り方を模索することになりました。アメリカ研修は12月、2学期間中、生徒10名程度、研修は現地校訪問と市内研修という状況に対して、長期休業中により多くの生徒が英語の上達を目指したプログラムを考えました。その結果、令和元年度、オーストラリア語学研修を立ち上げることとなりました。オーストラリアは日本とは季節が反対のため、日本が夏季休業中でも、学校の授業が実施されています。ブリスベンは冬であっても、とても温暖で過ごしやすい地域です。また、オーストラリアは多民族国家であり、豊かな自然環境と独特な動植物があり、地歴・理科の面においても学ぶ点が多くあります。ホームステイをしながら、本校生徒のための英語研修と現地校の授業に参加することがプログラムの中心であるため、英語力向上に集中的に取り組めますし、そのようなプログラムゆえに、派遣生徒数も25名になりました。

しかしながら、令和元年度に生徒を派遣したのち、その年度末には新型コロナウイルス感染症による世界的なパンデミックが起きました。臨時休校、マスク着用、ワクチン接種・・・日常が一変しました。海外派遣など実施不可能です。オンライン交流や国内研修等で、国際交流のできる形を模索しつづけて4年、ようやくコロナも日常的な病気となりました。ロシアのウクライナ侵攻による国際情勢の不安定、燃油高、物価高など数々の問題は抱えていますが、無事4年ぶりのオーストラリア語学研修を実施できることになりました。ワクチン2回接種が必須条件となってしまいましたが、4月に募集を開始し、25名の生徒が応募・派遣となりました。



## オーストラリア語学研修

8月18日から同月27日にかけて1・2年生生徒25名及び引率教諭2名が訪豪しました。中部国際空港を発ち、シンガポール・チャンギ空港を経由したあと、ブリスベン空港に向かいました。この研修期間、生徒たちはホームステイをしながら、現地高校 Narangba Valley State High School に通い、現地校生徒と授業を受けたり、日本文化に関するプレゼンテーションを行ったり、西尾高校生のためのESLの授業を受けたりしました。校外研修としては、クイーンズランド大学やローンパイン動物保護区等を訪れました。

### <派遣団>

男子10名、女子15名、引率教員2名（英語科教諭 筒井彩、養護教諭 加藤さと子） 計27名



ローンパインコアラサンクチュアリにて



クイーンズランド大学見学

<訪豪全体日程>

日数	月日	地名	時間	内容
1	8/18 (金)	中部国際空港 中部国際空港発 シンガポール空港着 シンガポール空港発	08:00 10:30 16:20 21:30	集合・受付・搭乗手続き・出国手続き後、 空路、シンガポールへ  空路、ブリスベンへ (機内泊)
2	8/19 (土)	研修地	6:55  午後	到着後、入国手続き  ローンバイン動物保護区、マウントクーサ ホストファミリーと対面、ホームステイ開始 (ホームステイ)
3	8/20 (日)	研修地	終日	ホストファミリーと過ごす (ホームステイ)
4	8/21 (月)	研修地	午前  午後	オリエンテーションと校内ツアー、歓迎モーニング ティー、現地校交流生徒授業参加 英語クラス (ホームステイ)
5	8/22 (火)	研修地	午前 午後	現地校交流生徒授業参加、英語クラス 現地校交流生徒授業参加 (ホームステイ)
6	8/23 (水)	研修地	終日	クイーンズランド大学訪問、ブリスベン市内散策 (ホームステイ)
7	8/24 (木)	研修地	午前 午後	現地校交流生徒授業参加、プログラミング授業体験 現地校交流生徒授業参加 (ホームステイ)
8	8/25 (金)	研修地	午前 午後	現地校交流生徒授業参加、英語クラス 日本文化プレゼン (ホームステイ)
9	8/26 (土)	研修地 研修地発 ブリスベン空港着 ブリスベン空港発 シンガポール空港着	午前 12:30 14:30 20:45	ホストファミリーとサヨナラパーティー バスにて空港へ 空港到着後、搭乗・出国手続き 空路、シンガポールへ 到着後、次便に乗り継ぎ (機内泊)
10	8/27 (日)	シンガポール空港発 中部国際空港着	1:20 9:05	空路、中部国際空港へ 到着後、入国手続き 通関後、解散



プログラミング授業



ESL でアボリジナルアート挑戦



日本文化プレゼン



<全体日程>

3月16日(木) 旧1年生に説明 (ST時担任からプリント配付、あんしんメール配信)

3月17日(金) 合格者登校日にて、新入生・保護者に説明

4月21日(金) 希望生徒説明会 (ISAより)

申込書・選考課題配付

4月27日(木) 申込書提出締め切り

5月9日(火) 選考課題提出締め切り

作文課題：志望動機 (日本語+英語)

5月12日(金) 生徒へ選考結果の連絡

5月26日(金) 第1回派遣生徒保護者説明会

- ・引率教諭紹介
- ・旅程等の説明 (ISAより)
- ・関係書類配付 (ISAより)

～6月2日(金) 関係書類提出

6月22日(木) 事前指導

～7月31日(月) ・オーストラリアを舞台にしたドラマ鑑賞

・英語教員やALTとの会話練習

・香港の学生との動画交流

・オーストラリアの文化や自然、訪問先等について調べ学習および発表

・地歴教員による講義



事前学習

7月7日(金) ホームステイガイダンス (ISAより)

8月2日(水) 第2回派遣生徒保護者説明会

・同窓会奨学財団より奨学金進呈

・旅の準備について (ISAより)

・両替 (希望者)

・引率より



8月18日(金) オーストラリア語学研修参加

～27日(日)



9月 報告書提出

10月 代表生徒8名、報告会準備開始

11月13日(月) 1・2年生対象に国際交流プログラム報告会で発表

報告会

尚、本年度のオーストラリア語学研修は国費留学促進事業より生徒20名に支援金が交付されました。それに伴い、計画書や報告書の提出も研修前後に行いました。



私は西尾高校図書研修部国際交流担当として、過去3回の海外研修では引率以外のすべての仕事に携わった。いつも事前研修を終え、いってらっしゃいという雰囲気になると、「え？先生は行かないの？行くと思ってた。」という言葉が派遣生徒から毎回もらっていた。今回の研修は引率も含めて、すべてに関わることができ、大変うれしく思っている。

まず、正直に言って、出発までこれほど心配な派遣団は初めてだった。ワクチン、ビザ申請、事前学習の無断欠席、コロナ後再開した他校の海外研修でのトラブル、今までの海外研修にはなかった不安要素が山ほどあった。保護者の皆様のご支援もいただき、無事25人をセントレアの集合時間に見たときには少し安心した。

オーストラリア到着まで旅程では、みんながきちんと連絡を聞き、責任をもって行動をしてくれて、円滑に進めることができた。ちょっとしたミスでタイムロスが発生することがあっても、辛抱強く待ったり、やり取りをしたりしながら解決していた。無事にみんながブリスベンの到着ロビーに着き、現地コーディネーターに会えた時には安堵と共に期待が膨らんでいった。

日曜日をホストファミリーと過ごし、月曜日に生徒に会うと、みんなキラキラしていた。ビーチに行ったり、ピクニックをしたり、Fish&Chipsを食べたり、色々な楽しい経験をした生徒たちは、現地校という次なる楽しみに胸を躍らせていた。パディに会い、みんなが散らばった後、コーディネーターは口々に、このグループをほめたたえてくれた。「振る舞いがよい。相手に敬意を払い行動している。ローンパイン動物保護区でエミューを見たいという生徒は初めてだ。すぐに話しかけてくる生徒もなかなかいない。きちんと準備をしてきたのだろう。」と。事前学習で英語の練習や調べ学習をしてきた成果が染み出ていたようだ。6月後半から生徒はたくさんの事前学習を頑張ってきた。それが、このような形で表れてよかったと思う。

朝ホストファミリーに送られてから、帰りホストファミリーが迎えに来るまで、たくさんの生徒と話をした。英語で話しかけても、英語でしっかり答えてくれた。日本語でも、授業やファミリーの様子をきちんと教えてくれた。スピーキングはまだまだでもコミュニケーションのコツを覚えたり、リスニングが格段によくなったりしているという話も聞いた。とても興味深かったのは、オーストラリアにもっといたいという気持ちから、日本の生活とオーストラリアの生活を客観的に比較している生徒や、次なるステップを考え始めている生徒が少なくなかったことだ。時間の過ごし方、国民性や教育の違い、当たり前日本の生活を見直すことができていた。高校や大学での留学方法や、奨学金の取り方、移住の仕方(!)まで話すことがあった。

1週間という短い滞在を精一杯楽しんでほしいと、パディもファミリーも本当によくしてくれた。それに応えようと、生徒は疲れもにじみでいたが、気持ちや行動で頑張っていたと思う。パディとの farewell、ホストファミリーとの farewell の時のみんなは、自信に満ち溢れ、英語も去ることながらコミュニケーションを楽しんでいた。西高生の涙もホストファミリーの涙も、その交流の深さを物語っていた。今の時代、オンラインでパディやホストファミリーとの連絡も簡単につく。これからも friendship を深めていき、一歩ずつ成長をしていってほしい。英語力・コミュニケーション能力の向上、多文化理解、新しい見地、主体的な行動力。この研修の目標は達成できたし、これをきっかけにこれからも伸ばし続けられる。オーストラリアの人たちの温かさ、"Nishio, you are the best group ever! Be proud of yourself." Jessi の言葉をしっかり胸に刻んでいこう。I love ya all!



ZEN GARDEN にて



自分にとっても人生で初めての海外研修、ホームステイであり、オーストラリアの人々、文化に触れることができ、すべてのことが新しく感じられ、とても実りある経験となった。私ですらそうなのだから、生徒にとってはなおさらなのではないだろうかと思える。

現地では、Narangba Valley State High School が研修の中心であった。日本の学校と比較して敷地面積が広く、平屋もしくは2階建ての建物が多く見られ、ゆったりとした雰囲気を感じられる学校である。学校見学の際には、生徒は口々に「広い!!!」、「でかい!!!」と言っていた。ESLやパディとの交流の中で、英語にたくさん触れる機会があった。初日には「相手は何言ってるか全くわからない」という声も聞かれたが、だんだんと打ち解け、パディと笑顔でコミュニケーションをとっている姿が多く見られた。最終日には、冗談を言い合う仲になっている生徒も！パディがアジア系だった生徒は、人種差別の話題にも触れたようで、オーストラリアのいい面はもちろんだが、そうした面を知ることができたことも、視野を広げることのできるような大きなことであったと感じた。オーストラリアの文化に触れながら、日本の文化・自分たちの暮らしについて認識を新にした生徒もいたようだ。毎朝の集合の時間には、昨日の様子やカルチャーショックを感じたことについて、生徒と英語で話していた。ホームステイ先の出来事を話す中で、違う家庭の様子も垣間見ることができたのではないだろうか。登校時は” Good morning. How are you?”、下校時には” See you tomorrow.”、そうした生徒同士の声の掛け合いもあった。英語で話すという雰囲気づくりを筒井先生が担っており、終始明るい雰囲気で行った研修期間を過ごすことができた。

ホームステイでは、ホストファミリーと料理やお菓子作りをしたり、ボードゲームをしたり、バーベキューをしたり、ビーチに行ったりするなど、様々な経験ができたようである。その中で、ホストファミリーに自分から積極的に話しかけることの大切さや、オーストラリアの生活、日常に必要な英語などを知ることができたという生徒が多くいた。「がんばって話すと、向こうが言いたいことを汲み取ってくれる」、「ボードゲームなどの遊びをとおして自然とコミュニケーションが取れた」と話す生徒もおり、日常の暮らしの中で英語力を培ったことが伺えた。私自身英語力は乏しかったが、聞き取れない、思うように話せないという現実を身に染みながら、コミュニケーションをあきらめない心が大切だと感じた。また、自信がなくて小さな声でぼそぼそ話すとより伝わらないということ、多少文法がおかしくても元気に話すことが大切だということに気がついた。これは、日本で英語のレッスンをしているときには全く気が付かなかったことであった。ホームステイをとおして、ホストファミリーの温かさや優しさを感じ、別れの時には泣いている生徒が多かった。ホテルステイでは得ることのできないものをたくさん感じる経験になったのではないかとと思われる。

本研修をとおして、生徒は多くのことを学び、様々なことを感じただろうと思う。日本とはすべてが異なる環境、人々の中で、改めて自分のことを見つめ直す機会にもなったのではないか。そうした環境の中でも、日本においても、大切なことは人とのつながりであると思う。人とのコミュニケーションの中で、必要なのは言語もだが、人と関わろうとする気持ちはないのだろうか。今回、生徒のみんなはお互いに声を掛け合い、パディやホストファミリーと対話し、コミュニケーションも学んだと思う。やりきったという自信もついたと思う。これから自分が輝いていくために、英語というツールを使いながら、今回得たものを糧に人生を切り開いていってもらえたらと思っている。



さよならパーティーでホストファミリー達と



## オーストラリアで学んだ日本の文化

私の姉は、中学生の頃シンガポールへ留学を経験していました。姉が留学を経験してから顔付きが変わり、勉強により一層努力する様子を見て、海外に行ったら私も何か変わるかもしれない、私も異文化を肌で感じてみたいと思っていました。入学者説明会の時、西尾高校には短期のオーストラリア留学の制度があると知り、絶対に参加したいと思いました。

出発前、私はちゃんと英語を聞き取れるか、自分の英語は伝わるのか、失礼なことをしてしまったらどうしようと不安でいっぱいでした。ですが、飛行機を降りてみると、そんな気持ちはなかったように充実していました。現地でのホームステイは、最初は私が受け身になるばかりで上手く会話が続きませんでした。しかし、何のために私はここまで来たのか、このまま日本に帰ってもいいのかと考えるようになり、毎日寝る前に次の日にする質問を何十個も考えて、ノートにまとめておくようにしました。すると、ホストファミリーとの会話が弾み、オーストラリアと日本の文化の違いをホストファミリーと一緒に発見することができました。一緒に UNO をしたことや、私がツルの折り方を教えるのととても喜んでくれ、飾ってくれたことは忘れられない思い出です。

現地の学校は日本の学校と違うことばかりでした。私が1番現地の学校で印象に残っているのは LGBT のイベントを行っていたことです。アフタヌーンティーの時間に学校の広場に紫や虹色の T シャツを着た生徒たちが集まり、ホットドッグを食べ、ジュースで乾杯している様子を見て、LGBT がこんなにも受け入れられていることにとっても驚きました。日本は LGBT に対する理解が乏しく、法整備も世界的に遅れているといわざるを得ません。現地では、学生向けにこのような楽しいイベントを開くことで LGBT に対する固定概念が若い世代から変わっていくのかなと感じました。



学校の LGBT イベント

ブリスベンの市内では日本の文化をたくさん見つけることができました。映画館ではいくつかの日本のアニメが上映されていて、ショッピングモールのフードコートには日本食料理店が数多く並び、道路を走る車は日本のものばかりでした。こういった様子を見て、日本の素晴らしい文化が海外に浸透していることを嬉しく思うと共にグローバル化が進んでいるのだということを目で見て感じることができました。

今回の研修を通して、自分の英語力がまだまだだと痛感しました。海外で暮らす人の英語と、教科書から流れてくる英語は全く違うものだというのを感じました。現地の人達の英語は単語を繋いで話していて、話すスピードが日本で聞いていたものよりずっと速く、知らない単語も多かったです。ホストファミリーに伝えたいことがあるのに、上手く言葉が紡げず翻訳機を使ってしまうこともありました。たくさん英語の勉強をして、もう一度ホストファミリーともっと話したいです。

また、今回の研修で日本の良いところ、改善していくべきところを見つけることができました。日本がより良い国になるようにもっと日本のこと、海外のことを知り、グローバル社会で活躍できるような人になりたいと思いました。



ホストファミリーと UNO



## 次の留学につなげたいこと

オーストラリア研修で、私は自分のありのままにいられる環境に将来は住みたいと強く思いました。私は今の西尾高校での生活はとても充実していて毎日がすごく楽しいです。ですが、相手が怒らないかな、自分の発言で傷ついたりしてないかなと、私は不必要なくらいに相手が自分に対してどう思っているのか気にしてしまうことが高校生になってから多くなってしまいました。また、自分の素を出さなきゃと思うほど、出せないことがありました。しかし、オーストラリアの学校では、人の目は気にせず、自分が好きな友達と一緒に過ごし、人のことをあれやこれや言わない人ばかりで、とても自分らしくいられる環境でした。私自身も初日から馴染むことができました。そのため、私もこういった、自分らしくいられる環境で将来働きたいと思いました。また、自分自身が、まわりの一人一人が素をだせる環境を作れる人になりたいとも思いました。

ホームステイで私は日本の家族と同じくらい大切な家族に出会うことができました。自分の悩みも相談できて、自分の意見も考えも感情も全てホストファミリーは受け入れてくれて、今回の研修でこんなにも素敵なホストファミリーに出会うことができたことがいちばんの思い出だと思っています。先生が事前学習でとにかく積極的に、とおっしゃっていたから、私はしつこいくらいに自分がしたいことを伝え、やりたいことを全て実現させてもらいました。また、ただ笑顔、ありがとうの言葉を伝えるだけでなく、自分の気持ちを英語にしてホストファミリーに伝えることができたおかげで、たくさんの経験をさせてもらえたと思います。英語が完璧でないからこそ、自分の使える英語をフル活用して相手に気持ちを伝えたら、ホストファミリーも絶対理解してくれるということを知ることができました。留学を成功させるかは、英語が得意不得意よりも、どれだけ自分の意見を言えるかなのかなと感じました。だからこそ、次に留学する機会を得ることができたら、自分の英語がどれだけ完璧でも、自分の気持ちを言葉にして伝えるということを絶対に忘れては行けないと思いました。

また、ホストチルドレンは二つ家族をもっているということを知りました。日本だと離婚をするとならば、父か母どちらについて行くかを決めて、どちらかと別々に暮らすという選択肢を取らざるを得ないことが多いですが、オーストラリアは二つの家族を歩き来し、二つの家族を持っているということを知りました。色々な国出身の親から子が生まれ、その子から子が生まれるという連鎖で、他民族の国になったのかなと思いました。

最終日にホストファミリーから「この家はまいかの家なのだからいつでも帰ってきてね。私たちはいつでも舞花を待っています。」ということを書いてもらえました。1週間という短い期間でこんなにも家族のような存在になることができたことが本当によかったです。

私は語彙数もリスニング力もないけれど心の底から楽しむことができたのはしつこいくらいの積極的だったからかなと思います。だから、もっともっと世界を知りたいし、いろんな国を旅していき、将来はこの経験を生かして貧しい国の子供をボランティアとして救いたいと強く思いました。家族とこのような機会を与えてくださった先生方には感謝してもしきれないです。本当にありがとうございました。



ホストファミリーと



## この研修で感じたこと

まず初めに、私がこの研修を受けようと思った理由は、日本以外の国に行ってみたいという興味があったからです。高校生のうちに海外に研修をする機会は滅多にないことだと思いました。私はこの研修以外で今までに海外に行ったことはありませんでした。そのため行く前から、英語がちゃんと聞き取れるか、現地の人とうまく会話できるかなどの不安がたくさんありました。しかし、実際にホストファミリーや学校のバディにあってみるとそのような不安は感じませんでした。たとえ聞き取れなかったとしても聞き返すとゆっくり話してくれたり簡単な語を使って話したりしてくれました。このような現地の人々のやさしさを初日から感じました。オーストラリアのバスに乗ってホストファミリーとはじめて会った時から緩かく出迎えて下さり、緊張がほぐれました。また、ホストファミリーとはたくさんの思い出を作りました。休みの日には家族そろってビーチに遊びに行くなど、家族のつながりをとても大切にしていると思いました。私のホストファミリーは、キリスト教を信仰していました。そのため休日には教会に行くことが多く日本とは違った文化を体験することができて、たくさんの刺激を受けました。



ホストファミリーと初めて会った日

オーストラリアの学校はとても自由で、自分の学びたい科目を選択する方式で、自主性が求められているのだなと感じました。また、日本では、授業中に個人的な質問をするとみんなの注目を浴びて質問しにくい環境になりがちですが、オーストラリアの生徒はわからないことはすぐに手を挙げて質問していました。それに対しても先生が全員の疑問として取り扱っていて、学ぶことに対して意欲的だと思いました。学校生活の最後の日には日本の文化を紹介しました。一つ一つ紹介するごとに大きなリアクションをくれて、日本文化に興味をもってもらえたことがうれしかったです。学校のランチタイムではホストマザーが用意してくれたランチをもってバディと会話しながら過ごしました。話を聞いていると、友達と遊びに行ったり、習い事に行ったりと日本の高校生とほとんど変わらないことが分かり、同年代のつながりを感じました。



バディとランチタイム

私はこの研修から外国に対する理解が変わったと感じました。研修前は、外国は未知の世界で何もかもが異なり、文化、食事、生活の仕方などを理解するのは難しいと思っていました。しかし、研修後は外国には日本と似た文化も存在していて国同士は離れていてもどこかでつながっているというふうに考えるようになりました。この8日間という短い期間で数え切れないほどの驚き、喜び、思い出が出来ました。それは、ホストファミリーやバディ、一緒に行った仲間のおかげだと思います。研修にかかわってくれたすべての人に感謝し、この経験から外国のすばらしさについて発信し、自分の英語力向上に向けて努力していきたいと思っています。



## オーストラリアの思い出と学んだこと

今回の語学研修に応募した理由は、以前、家族で海外旅行をしたときに兄や母は現地の人とたくさん話をしていてとても楽しそうでした。私も英語で会話がしてみたいと思ったし、実際に海外に行ってみないとなかなか機会がないと思ったので、挑戦してみました。またテストで高得点が取れる英語も大切かもしれないけれど、実用できる英語力もつけたかったので、応募しました。

出発前までは、自分が語学研修に行くという実感はあまりなかったです。また、10日間も行くのかあと、とても10日を長く感じていたので、不安もありました。

ホストファミリーは初日からとても親切でした。ホームステイで大切だと感じたのは、自分の意見はきちんと言語化して伝えることです。言語も文化も違う地域では、たとえ流暢な英語でなくても、自分のやりたいこと、食べたいもの、味がどうなのか、今は自分のやりたいことをしているのか、など何でも聞いたらホストファミリーは答えてくれるし、伝えることが何より大切だと感じました。私のホストファミリーは、とてもアクティブで毎日学校が終わるといろいろなところに連れてってくれました。毎日違うビーチに行き、一緒に買い物をしたり、ホストファミリーの親戚の人にも合わせてくれたりしました。私が出会えた人みんな、とても優しくかったです。私の話すことは、急かさずに聞いてくれたり、私が聞き取りやすいよう、ゆっくり話してくれたり、聞き取れなかったらもう一度言ってくれたりもしました。緊張してしまうこともあったけれど、それが吹き飛ばすくらい、笑顔で親切なホストファミリーに出会えて嬉しかったです。

ホストスクールではパディの子と授業を受けました。パディもファミリー同様、とても親切で私のカタコトな英語を一生懸命聞こうとしてくれます。最初は、文を組み立ててから話すだけでなく、自分の言いたいことをどんどん口にしていくことも大切だなと思いました。

オーストラリアでは、自分の意見を曖昧にしては伝わらないということ学びました。でもそれは海外だけでなく、日本でも同じかなとも思いました。もちろん、言語が通じる者同士だからこそ、相手の気持ちを考えたりしすぎて、はっきりと言にくい部分もあるかもしれないけれど、誤解を招いたり自分の意見を押し潰してしまうことがないように、自身と他人の意見をどちらも大切にできるようにしたいです。

オーストラリアで得た学びを大切にして、今後の人生をよりよいものにしていきたいです。

オーストラリアで得た学びを大切にして、今後の人生をよりよいものにしていきたいです。



ホストファミリーとキャンプファイヤー



ホストマザーと夕日



## オーストラリア語学研修で学んだ「人と分かり合える喜び」

私は、中学生の時に西尾高校にオーストラリア語学研修があると知り、参加したいと思って西尾高校に入学しました。私の祖父母と叔父は留学経験があり、その話を幼いころから聞いていたので、私も海外に行きたい、英語が得意になりたいと思って、興味がありました。

今回の研修でいちばん良い経験だったと思うことはホームステイです。これは出発前にいちばん不安だったことでもあります。自分の言いたいことが伝わるか、誤解されないか、文化の違いをきちんと受け入れてもらえるか、たくさんの不安がありました。しかし、ホストマザーと対面したとき、その不安はすぐに消えました。ホストファミリーはとてもやさしく、明るく接してくださったので、初日からすでに大好きになっていました。ホストファミリーとともに、日本では見られないもの、食べられないもの、できないことを経験できて、すごく貴重で有意義な1週間だったと思います。そして、ホストファミリーは私たちにわかりやすい英語でゆっくり話してくださり、私も理解しようと一生懸命聞いたし、自分の考えを言葉にしようと努力しました。その結果、教科書には載っていないけれど会話でよく使う表現や会話のコツがわかってきて、会話が続くようになりました。また、普段あまり自分の考えを言えなかったけど、ホストファミリーと会話をする中で、自分の言いたいことを言えるようになったと感じます。一方では、自分の知らない単語の多さも実感しました。

会話の面では、学校のバディと接することでも成長できたと思います。最初はあまり会話ができず、不安でした。しかし、質問にただ答えるだけでなく相手にも聞き返したり、お互いの好きなことや日本、オーストラリアについてなど質問を考えて聞いてみたりして、たくさん会話ができました。少しでも聞こうと思ったことはなんでも聞いてみようと思って過ごしたことがよかったと思います。

日本との違いを特に感じたのは、現地の学校です。髪形やアクセサリー、メイクは自由、授業は始まるのチャイムがなく、自然に始まり、先生が説明するよりも生徒主体の形式が多い、といったように日本よりも生徒の自主性に任せていると感じました。さらに、授業は14:30に終わる、アルバイトもしてよい、というように、学校だけでなく、自分の時間や家族との時間、社会とかかわる時間を大切にしているように思いました。そしてこれは、学生だけでなく大人にもいえることでした。私たちのホストファミリーには2歳の子がいたからか、ホストファザーもマザーもいつも出社するわけではなく、在宅ワークの日もあり、家族との時間を大切にできる仕事環境が整っていると感じました。

この研修を通して、私は、自分の言いたいことを言葉にして伝えることの大切さを学びました。一生懸命伝えようという思いを持って伝え、常に相手を思いやる優しい気持ちがあれば、理解しあえるし、お互い好きになれる、と感じ、その喜びを実感できました。そして、英語で自分の言いたいことを文章として考えて話す力もついたと思います。この経験を生かして、誰にでも、思いやりの気持ちをもって積極的に会話をしていきたいと思っています。さらに多くの人と分かり合い、喜びを感じられるように、もっとたくさんの英単語を覚えたり、教科書以外の英語も学んだりしていきたいです。



ホストファミリーと外食



ホストファザーの実家で  
マカダミアナッツの殻割り



## いろいろな人に支えられた語学研修

私がオーストラリア語学研修に応募した理由は、グローバルスタンダードな英語の上達とオーストラリアの生活環境を知るためです。そして、どんな視野が開けてくるのか出発前からすごく楽しみにしていました。

実際に行ってみて、たくさんの方に印象を受けました。

まず、現地での学校交流はバディとバディの友だちと長い時間を過ごしました。オーストラリアの授業は日本とはまるで違い、経済やディベートなどを学ぶ授業がありました。特に楽しかったのは映画について学ぶ授業です。作品の良さを作りだしている表現について説明したり、それによってどんな印象をうけたりするのかを映画を見ながら言い合っていくのは、少し英語で表現するのが難しかったけれど、バディは最後まで聞いてくれてとても話しやすかったです。私のバディは映画監督をめざしているそうで、高校生のうちから専門的な内容を学べるのが良さだと思いました。

次に、ホームステイについてです。私のホストファミリーは7人家族でした。教会に連れて行ってくれて新しい経験をさせてくれたり、ブリスベンに連れて行ってくれてイルミネーションなどの日本とは違う感動的な景色を見せてくれたりしました。ホストマザーは私に対して、お客さんのようにおもてなししてくれるだけでなく、英語で会話をいっぱいしてくれてとても勉強になったのと同時にありがたみを感じました。4人の女の子たちは友達のように接してくれ、英語でもうまくコミュニケーションをとることができたと感じさせてくれてとても感謝しています。また、ホストファミリーの赤ちゃんはとてもかわいかったです。赤ちゃんはお姉ちゃんの行動を真似するくせがあったり、危ないと思って隠した物をめざとく見つけたり、赤ちゃんの性質に気づいて、それに対するお姉ちゃんたちの働きをみて新しい発見がありました。赤ちゃんのしたいことを許すばかりではだめで、いけないことはちゃんと注意していて、みんなとてもこなれていました。お世話や家事をしっかりとっていて、みんな仲良しでした。私はそんな団らんに入ることができてうれしかったです。そしてこれらは、かけがいのない思い出で、ずっと記憶に残しておこうと思いました。

市内研修では、私と友だちが迷子になりかけていたところを、飲食店の店員さんが話しかけてくれて道を教えてくださいました。オーストラリアの人の温かい心に触れました。また、中学のときに習っていた、オーストラリアの多文化尊重の雰囲気を感じられてとても学びになったと思いました。

これらの研修は、自分に、変化、自信、愛、勇気すべてを与えてくれました。様々な挑戦を乗り越え、内面の変化が大きいです。



ホストファミリーと



バディと



## オーストラリアで学んだこと

僕は中学生の頃から海外に興味があり、ずっと海外に行きたいと思っていました。しかし中学生の頃は新型コロナウイルス感染症拡大の影響ですべてのプログラムがなくなりやっとありつけた機会でした。実際に現地に行って特に印象に残っているのは現地の高校生との交流や、日本の学校との授業の違いです。まず驚いたことは、オーストラリアの高校には沢山の人がいたことです。日本では黒髪に見慣れていたので、金髪や茶髪の人達がいることにとっても驚きました。やはり歴史的にもヨーロッパ系の人種が多いように感じました。

僕のバディはオーストラリア生まれの中国人でした。彼はとても明るい性格でみんなと仲がよく、何の問題もなく高校生活を楽しんでいると思っていました。しかしながら、彼は衝撃的なことを僕に告白してくれました。彼は一部の人種差別主義者たちから人種差別を受けていたと打ち明けてくれたのです。僕は絶句しました。日本の学校にいたら人種差別などされることはありません。そのため、多民族国家ならではの弊害なのだと思います。

日本の高校は紙とペンを使っていますが、オーストラリアの高校は、数学の授業以外はほとんど使っていませんでした。代わりにパソコンを使っていました。毎日使っているようなのでタイピングがとても速く、おそらく日本の社会人レベルだったと思います。そのため、社会に出たときにとっても役立つ能力だと感銘を受けました。同時に日本にも取り入れるべきシステムだと思いました。私達の高校では3年生になったら大学受験の勉強しかしらないと思いますが、オーストラリアの高校は就職する場合のために全員履歴書の書く練習をしていました。もちろん紙ではなくパソコン上です。そのような点で日本の高校より大きく進んでいると感じました。また日本の学校は毎日制服を着て学校に行かないと行けません。しかし現地では1週間に一回フリードレスデーというものがあり、私服でも制服でもどちらでもいいという日がありました。日本の学校とは違い、広い考え方や生徒に対して真摯に向き合っていました。

言語面では僕は行く前に語彙を増やしたりフレーズを覚えたりとしっかりと準備をしたつもりでした。でも自由に喋れないことが多かったり、直接的な表現ではなく間接的な表現になったりしたりと、自分の能力に未熟さを抱きました。そのため、この経験を糧に自分の能力を伸ばそうと思いました。

最後に、この語学研修で沢山のことを学ぶことができました。海外に行くという貴重な経験は英語の能力を伸ばすだけでなく、人間性やコミュニケーション能力、適応能力なども伸ばすことができました。でもやはり言語力はまだまだと感じたのでこれからしっかりと勉強してまたオーストラリアや他の国に行って自分の能力を最大まで伸ばそうと思いました。



ホストファミリーとの食事



ホストファザーとビリヤード



## オーストラリア語学研修を通して

私は中学生のころから外国の文化や習慣などに興味がありました。そして、学校の教科書や物語の中だけでなく、自分の目でその文化や習慣を見て感じてみたいと考えていました。また、英語などの言語を学ぶことが好きで、将来は言語に携わった仕事に就きたいと考えていたため、今回のオーストラリア語学研修に参加しました。

ホームステイでは、家族全員が明るく優しく迎えてくれて、とても楽しく過ごすことができました。また、食事や家のことなど様々なところで異文化を体験することができました。特に私の印象に残っていることは、トイレやバスルームに鍵が無いことです。もちろん公共の場所には鍵がありますが家の中のものにはありませんでした。そのため、使っていないときや使い終わったときには部屋の電気を消し、少しだけ扉を開けたままにしておくことや、使いたいときはノックをすることなどがされていました。日本人が気にしすぎているだけなのか、オーストラリア人がルーズなだけなのかはわかりませんが、国によって意識が違うことがわかる面白い文化だと思いました。また、ホストファミリーとたくさん話すことによってリスニング力やスピーキング力が少しは身についたと思いますが、同時に自分の語彙力や知っている単語の少なさを痛感しました。

現地校での交流では、パディが友達同士で普段通りに話すように私にも話しかけてくれるため、話すスピードがとても速く、はじめは全然聞き取ることができませんでしたが、日がたつにつれてなんとなくではあるものの段々と聞き取れるようになって、会話ができるようになっていきました。授業では、私が先生の話している内容が全く分からずにぼかんとしていると、授業のことや数学の公式について教えてくれました。そのため、日本ではまだ習っていないところを少しだけできるようになりました。また、オーストラリアでは学校で学ぶことができるものについて日本と違った部分があり、自分になりたい職業について早くから学ぶことができます。それとともにお金も稼ぐことができ、早くから社会の仕組みや自分が就きたい仕事のこと、お金のことについて学べることはとてもいいことだと思いました。

今回の研修を通して、オーストラリアの様々な文化や習慣だけでなく、日本とは違ったところもたくさん学ぶことができました。例えば、学校の制度やオーストラリアの自然のことなどです。それとともに、自分の英語力の低さを知ることができたので、もっと多くの人とたくさん話せるようになりたいと思いました。そのために、学校の勉強以外にも、自分の改善点であるスピーキング力とリスニング力を伸ばすために英語のラジオを聞いてみたり、英語で独り言を言ってみたりするなどの行動をしていきたいと思います。

この経験を生かして、外国の良さを伝えていくとともに、今の日本をどう変えていけば良いのかなどを今の若いうちから考えていきたいです。また、日本人、外国人問わず困っている人がいたら積極的に声をかけられるようになりたいと考えました。



マシュマロを焼く  
ホストブラザー



ホストファミリーと  
フィッシュ&チップス



## 海外研修で得たもの

高校に入学する前から、海外についてもっと知りたい、自分の目で世界を見てみたいと思っていました。また、英語が好きでもっと学びを深めたいとも思っていたので、オーストラリアに行ける機会を頂けたときは本当に嬉しかったです。ですが、オーストラリアに行こうと思ったら行けるような簡単なものではありませんでした。私は中国国籍でビザをとる必要がありました。海外研修に間に合うように沢山の書類を記入、発行、提出することは思った以上に大変でした。親の協力があって無事にビザを得ることができました。また、最初は自分だけ違うマークのパスポートを表に向けることに抵抗感があったものの、「かっこいい！初めて見た！」と言ってくれる友達の姿があり、心配しなくても良かったのだと思いました。日本を出発する前から、自分のアイデンティティは隠さなくていいということ学びました。

私は今回の海外研修で達成したい目標を二つ掲げ、オーストラリアへ旅立ちました。

一つ目の目標は英語のレベルを向上させることです。英会話のレベルを上げるためには英語を話す現地の人と話すことが良いとよく聞きます。しかし、現地の人には話すのが速く全く聞き取れませんでした。それでも、英語に耳を必死に傾けることで段々と耳が慣れていき、徐々に聞き取れるようになりました。話すことにもとても苦勞しました。即興で文を作る力や語彙力の無さを痛感しました。同時に、辿々しい私の英語を一生懸命理解しようとしてくれる、ホストファミリーやバディの温かさに感動しました。海外研修で感じた、言いたくても言えないもどかしさをモチベーションに変えて、英語の学習に励んでいきたいです。



大好きなバディたち

二つ目の目標は日本の文化を沢山のの人に知ってもらうこと、だったのですが、日本の文化は結構浸透していることを身をもって感じました。昼食にお寿司を食べたり、ホストファミリーと千と千尋の神隠しをみたり、ポケカをやったり。あまり意識していないだけで、日本の文化は潜んでいるかもしれないと思いました。日本の外から日本を見たからこそ、色々な国の文化が多様に絡み合っていることに気がつくことができました。

海外研修を通して、自然やオーストラリアの文化に触れたり、オーストラリアの人々の温かさを感じたりすることのできる貴重な体験をすることができました。なにより、ホストファミリーの家での生活の中で、自分で考えて動き、自分の意識を伝えようと努力したことが私を大きく成長させたと思います。それはどこにいたって大切だと思います。自分から動き、発信することを恐れては何もはじまりません。オーストラリアで得た、多すぎるほどの思い出と学びを忘れずにこれから繋げていきたいです。



ホストファミリーと海辺で夕食



## オーストラリアで感じたこと

僕がオーストラリア語学研修に応募した理由は、海外へ行って、色んなことを学んだり、感じたりする中で自分の視野を広げるためでした。それをクリアするために、出発するまでに、学校で配付された冊子を使って勉強したり、英語が少しでも聞き取れるようにするため、英語の動画で耳を慣らしたりしました。また、ホストファミリーに何を渡したらいいかを考え、着いてから自分で自分の身の回りのことができるように、荷物の整理、風呂の時間などをも考えて過ごしました。

現地の学校では、色んな国の人と一緒に遊んだり、勉強したりしていました。お互いにいざごさとかなく、それぞれが自分と違うところを認め合っていて、受け入れて過ごしているところが印象に残っています。また、授業は、選択制となっていて、自分の学びたい教科を選び、生徒が幅広く自分の学びたいものを学べるようになっていました。科目の中には日本には無い科目もありました。生徒全員が、パソコンを活用して、授業を受けたり、レポートを作成したりしており、日本の学校の教育スタイルとは、全く違うものを見ることができました。オーストラリアの



パディと昼食

学校は、自分で科目の選択、自分で調べてレポートを作成するなど、自分で考え、学ぶというのが日本より進んでおり、大人になるときの自主性につながるのかなと考えました。

ホストファミリーとの生活の中で1番印象に残っていることは、社会問題や環境問題について意識の高いところです。僕のホストファミリーは、生活の中で海の環境の話や朝ニュースで出てきたことについて家族で話していました。僕にも、パソコンで画像を調べてくださり、見せてもらえました。自分の住んでいる国のことはもちろん、世界の出来事について関心の高い姿は自分の意識の低さを見つめなおすきっかけになりました。また、学校の授業でも、オーストラリアの環境保全や観光などの話をしていました。自分で調べ、そこから、授業で学んだこととからめてレポートを作っていました。そのような授業が意識の高さにもつながっているのかなと考えました。

このような経験を通して、もっと自分から日本のことを知ろうとしたいなと考えました。オーストラリアでは、自分から自分の国のことを調べ、家族と社会について色んなこと話すことができるような環境だったので、僕も日本のことにアンテナを張っていきたいです。そこで得た情報から、自分の将来のことなど発展させて考えることもできるようにしたいです。また、オーストラリアの人のように、分け隔てなく人と話せるように意識していきたいです。それぞれ違った個性や、性格、環境などあるので、自分と違っても気にせず、人と関わっていききたいです。



ホストファミリーとブッシュウォーク



## 私のオーストラリア海外研修

私がこの研修のことを知ったのは合格者説明会が最初でした。その時は、自分が参加するとも思っていなかったし行きたいとも思いませんでした。両親にこのような体験は今のうちしかできないと言われ、参加を決めました。けれど、すぐ行けるわけじゃなくて色々複雑な手続きをしたり、事前学習などをやったりしてようやく行けたと言う感じです。ここまでこの研修に関してやる気のある文を書いたけれど、私にはかなり面倒だったし正直行きたくありませんでした。もちろん英語の勉強はしていくし、自分はそれなりに英語ができると思っていたけど、通じなかった時にどのような反応をされるかを考えるととても怖かったです。親にお金を払ってもらっている以上キャンセルすることもできず、オーストラリアに行ってきたというところですが、今は行ってよかったと思っています。

結論としては、英語が上手く話すことができなくても、私の場合はなんとかなりました。ホストファミリーにしっかりと伝えることができることは伝えて、上手く伝えられないところはジェスチャーでもなんでも使って伝えるようにしたら、思っていたよりも伝えたいことが伝えられずに困るという事態にはならなかったという、英語とはあんまり関係のない学びを得ました。これが私のオーストラリアに行ってよかったと思える一つ目の理由です。

二つ目の理由は、教育の違いを感じることができたことです。この研修では現地の学校に行ったけれど、日本のペンと紙を使った授業と異なりパソコンで文を書いたり問題を解いたりしているところや、授業全体の自由度自体が大きく異なっていました。基本的にはこの二つは日本との教育の違いで良いと感じることができた部分です。悪いと感じたのはトイレなどの衛生面です。確かに日本のトイレなどはとても綺麗なのでそれと比べるのは理不尽かもしれないけれど、落書きがたくさんあったり、何故か便器の中にパンが落ちていたりというような、日本人からすると、とても衝撃的な絵面でした。

現地校で学んだことというか、実感したことは人の優しさです。私たちは向こうの人から見ると外国人です。これが日本だったら、いきなり外国人と喋ることに躊躇う人が多いと思うけれど、現地校の人は会ってすぐに話しかけてくれたり、困っていると助けてくれたりして、文化の違いによって人間性も変わってくるということを示す良い例だなと感じました。私が今回行ったのはオーストラリアだったけれど場所が違えば文化が異なるように、他の国の人もまた日本人とは違っているのだろうと考えました。

これからの世の中はよりグローバルな横のつながりが大事になっていくでしょう。その時に相手国の人間性を知っていることはコミュニケーションを円滑に進めるために重要だと思います。そのため、私は今回の経験をまず一歩目として次の経験を積むことを目指していこうと考えました。



ホストブラザー



## オーストラリアで学んだこと

僕がこの研修に応募した理由は、将来世界中の人と関わるような国際的な仕事に興味があったからです。過去にフィリピンに行った経験から、自分が知っている世界がいかに狭いか実感し、もっといろいろな国に行ってみたいと考え、この研修に参加したいと思うようになりました。

事前準備で様々な準備をしていくうちに英語力やオーストラリアの知識を身に付けるだけでなく、他のメンバーと協力する体制をつくることができました。そのおかげで、現地でプログラムに取り組むときに戸惑うことはほとんどありませんでした。

現地で一番印象に残ったことは、ホストファミリーとの生活です。行くまではホストファミリーとの生活がうまくいくかが一番心配でした。しかし実際に会ってみると、とても暖かく、フレンドリーな家族で安心しました。ホストファミリーとカードゲームで遊んだこと、一緒にいろんな場所に出かけたことで距離が縮まり、本当の家族のように過ごせたことはかけがいのない思い出です。

現地校との交流では、国籍の違いを乗り越え、バディと友人関係を築くことができました。休み時間などに積極的にコミュニケーションを取り、お互いの趣味などについて楽しく会話できまし

た。バディとは今でも連絡をとっています。国籍が違っても勇気をもって英語で話しかけることで、心を通い合わせることができる実感しました。また、言葉と同じくらい表情、身振り手振りなどのノンバーバルコミュニケーションも非常に大切だということがわかりました。

僕がこの研修を通して学んだことがたくさんあります。その中でも特に大切なのは、積極的に行動することで様々な経験ができ、たくさんの発見につながるということです。その発見により自分の知っている世界が広がり、物事を見る視野が広がりました。それを実感したのは様々な世界情勢などについて考える時、日本とオーストラリアの二つの視点で考えられるようになったからです。

将来海外で仕事をする機会があった時に、その国には日本とは異なった価値観が存在します。だからこそ、その国の事情などもふまえて物事を多面的に考える必要があります。その際に今回の経験で得たことを活かしたいです。

このプログラムに参加しなければ、出会えなかった人、できなかった経験があります。英語力にそこまで自信があったわけでもなく、不安な気持ちもありましたが、一步踏み出してみて本当に良かったと思います。少しの不安があっても挑戦してみることで得られる貴重な経験があるということを心に留めて、生きていきたいです。



ホストファミリーと



バディと



私がこのオーストラリア語学研修を通して学び、得たことは二つあります。

一つ目はホストファミリーであるデイビスさん家との交流から得た学びです。ホームステイでは、自分の知らなかった新たな文化や生活様式として、家が土足だったり、シャワーがメインであったり、家が広くプールがあったりすることを知ることができました。また、ベッドメイキングや手料理などの温かなおもてなしと、いちご狩りや市場に連れてってくれたりするなどの経験をさせてもらえました。ホームステイの驚きとして最初に感じたのは、デイビスさん家の食事の美味しさでした。僕がリクエストしたミートパイは、オーギービーフが使用されていて、地元の味を存分に楽しむことができる逸品でした。家庭料理は、トルティーヤやタコスなどができて、驚きの美味しさがあり、僕の心に残っています。また、言葉や文化の違いを超え、ホストブラザーとのゲーム対決もとても楽しかったです。異なる環境での暮らしに対する理解を深め、言葉の壁を乗り越えながら笑顔でコミュニケーションをとることができました。また、現地ではマラソン大会に参加して五キロを走るなど、非日常で特別な体験をさせていただきました。僕のホストファザーが南米出身で、彼の出身国に住んでいる親戚とテレビ電話をしていた時があったのですが、向こうが朝でオーストラリアが夜という場面を見て、日本に住んでいるとあまり見ない光景であり、不思議な感覚でした。ホストファミリーと様々な思い出は、ただ異文化を理解するだけでなく、交流を通して心身共に成長することができました。



ホストファミリーとビーチ

二つ目はオーストラリアの学校での日々から得た学びです。まず、学校でのバディが素晴らしい時間となりました。ブライソンというバディとの出会いは、言葉や文化を超えて友情を築ききっかけとなりました。彼と一緒に授業を受けたり、休み時間に共通の話題で盛り上がりやすくなることで絆を深めることが出来ました。ブライソンの友人の車好きとの交流も忘れられない思い出です。車について、海外でもGTRなどの日本車が人気であるという話は、驚きでした。英語でのコミュニケーションを通じて、自分の意見を表現し合う中で、言語力の向上だけでなく、コミュニケーションスキルの向上も感じられました。学校での思い出は、単なる学業だけでなく、人間関係や趣味を通じて得るものが多かったです。

この経験を通じて、単語や文法がわからなくても相手の話していることをよく聞くことと同時に、積極的に質問して会話の質を上げることが大切だということに気づきました。また異なる環境での生活は、自分自身の生活の質を見つめ直す良い機会でした。また、海外では非常に生活スタイルや空気感がゆったりとしており、日本のような何かに追われる日々とは異なっていると感じ、やはりそこにも文化の違いを知ることができました。僕はもともと海外に行きたいと強く思っており、今回の研修で実際に海外を見ました。将来は海外で働こうと思っていますが、今いるところとは別の世界に目を向けてみると、海外は面白いな、と再認識しました。これらの経験を、将来に向けて前進し続けるための軸にしたいです。



## オーストラリア研修で培ったもの

僕はこの研修で、英語の苦手意識克服と、多文化理解を深めること、コミュニケーション能力を鍛えることを目的としていました。ですが、オーストラリアでの生活に期待を寄せるとともに、自分の英語力ではうまくコミュニケーションをとることができないのでは、と研修前は不安に思っていました。なので、オーストラリアに行く前までに少しでも英語の力をつけようと学校から貰ったテキストなどを使って勉強をしました。また、ホストファミリーと事前に連絡を取り合い、自分の英語を理解してくれると分かった状態で、安心して出国することが出来ました。

ホストファミリーの皆さんは会った当初からとてもフレンドリーに接してくれて、たくさん僕に喋りかけてくれました。ですが、僕は会話に押されてしまい、あまり自分が考えていた質問を聞くことが出来ませんでした。また、逆に質問されたことにしか答えられず、事前学習でやったことも活かすことが出来ずとても後悔をしました。そのため、次の日からは1日10個は必ず質問するというルールを決めて、自分から積極的に会話をしに行く事で、少しずつ英語でコミュニケーションをとることが出来るようになってきました。オーストラリアの方はとても優しく、僕の拙い英語も聞き取ろうとしてくれたり、質問した事に答えるだけでなく僕に質問をしてくれたりしました。何事も自分から積極的に行動を起こすことが大切だと改めて感じました。

また、僕はバディにも恵まれ、とても充実した生活を送ることが出来ました。僕が高校で印象に残ったのは教育システムです。自らが学びたい教科を選択し、ブレイクタイムがあり、生徒が自ら考えて行動していくような、日本とは違った教育システムだと思い、とても印象に残りました。

自分は研修を通して外国人の方々に持っていた怖いなどの偏見を見直すことが出来たと思います。そして、自分にはなかった新たな価値観、ものの見方を理解することが出来たように感じます。今回の研修で出会った方々全員が僕達のような外国人を見て、態度を変えたり、変に取り繕ったりすることはせず、日本人のように初めて会う人に対して猫を被る訳でも無く、素の自分で接してくれました。やはり日本人は固定概念として、自分を表に出さない方が良いと考える人が多くいるのではないかと思います。また、ナランガ高校の生徒は間違えることを恥ずかしいことだとは思わず、自分の意見を積極的に発言しており、ここからも日本との価値観の違いを感じました。

僕は今後この経験を将来の職業選択や日常生活の中で活かしていきたいと考えています。僕はこの経験からとても英語に興味を持ち、もっと外国の方と会話をしたい、海外に住んでみたいとも考えるようになりました。そのため、国内からでも、国外に行ったとしても、外国人の方を助ける事が出来るような、外国の方に関わることの出来る仕事に就きたいと感じました。また、ホストファミリーやバディと過ごす中で培うことが出来た積極性や、新たな価値観、意見をはっきりと言うなどのことを、これからの学校生活で活かしていきたいと考えています。



ホストファミリーと一緒にアイス



## オーストラリアの思い出

出発前までは楽しみより不安がとても大きく、両親に金銭面で迷惑をかけてしまうぐらいなら申し込まなければよかったのではないかなど思っていました。自分の英語力のなさが1番の不安要因でした。でもオーストラリアで過ごしていくうちに不安は消え、本当にこの研修に参加してよかったなと感じるようになりました。特にそう思った瞬間はホストファミリーと過ごす時間です。英語は上手に出来ないけれど、ホストファミリーとたくさんお話ししたい気持ちが不安に勝って、ホストマザーにオーストラリア英語スラングを聞いてみるなど「積極性」を意識しました。そのお陰で日本では出来ないリアルな英語に触れることが出来ました。またどんどん話が弾むようになってホストファミリーと一緒に笑い合うことが出来たときは、本当の家族のように仲が深まって嬉しかったことが印象に残っています。それに、こうやってホストファミリーと過ごすうちに積極的に行くことは様々な経験をする上で大切だとも学ぶことが出来ました。例えば行ってみたいところや食べてみたいものがあれば口に出してみていることで他の研修生が食べたことの無いものを食べたり、お店に行けたりしました。中でも「チキンパルミジャーノ」の美味しさには感動してポリューミーだったけれど完食してしまいました。念願のサウスバンク観覧車に乗れたときは想像以上の速さと5周もするしくみに驚きました。

逆にオーストラリアでこうすればよかったなという点は現地校での過ごし方です。私の現地校でのバディーは日本語専攻ではなかったこともあり、授業内容がほぼほぼパソコンを主に使う授業で何をすればいいのかわからなくて時間を無駄にしてしまった時がありました。それに、現地校の子達の英語がホストファミリーよりも早くてバディーやバディーのお友達に質問されたり話しかけてもらっても上手く答えることができなくて自分から話に行くのが怖くなってしまいました。学校最終日には、モーニングティータイムのときに現地のお友達と笑い合えたり、インスタグラムアカウントを交換出来たりして、結果的に良かったのかもしれないけれど、悔しい気持ちも残ってしまったのでこの気持ちをバネに英語の勉強を頑張っていきたいと思いました。

学びもあって楽しい思い出もあってと充実しすぎている留学だったと思います。10日間では足りないほどの夢みたいな時間を過ごせました。オーストラリアでやり残したことは一つもないくらいです。もっと世界の色々な所に行ってみたく色々な人々と仲良くなってみたく考えるようになったので、将来は国際系の仕事に就いてみるのもいいなと前よりも将来的な夢が出来ました。最高の経験をさせてくれた両親への感謝をいつかこの研修で出来た将来の夢を叶えて、恩返しできるようにしたいです。



ホストブラザーの  
ベストショット



ブリスベンモニュメント



## オーストラリア大好き！

私は、このプログラムに参加する前から英語や韓国語などの新しい言語を勉強することについてとても興味をもっていました。そして、全ての教科の中で英語が得意であることや、発音が上手だと褒められることが多かったことから、現地の人と英語だけで会話する生活を送ってみたいと思い、応募しました。オーストラリアに行く前は、英語の勉強をしなきゃと思いながらも全然実感がわかなくて、せっかく新しい単語帳を買ったものの勉強しなかったということがありました。しかし、自分の語彙を増やすためにも、人の話していることをより理解するためにも、もっと早くから何度も単語の勉強をしておくべきだったなと思います。

ホームステイ先ではホストファミリーが、学校ではバディが、とても優しく話を聞いてくれたり、たくさん一緒に喋ってくれたりして、オーストラリアの人たちはとても優しいのだなと思いました。

私がこの研修の中で1番印象に残っているのはサンシャインコーストの海です。私が今まで見てきた海の中でいちばん大きく広く感じたし、青が透き通っていてとてもきれいな色をしていました。私は元々海を見るのが好きで、オーストラリアの海を見てみたいと日本にいる時に思っていたので、とても嬉しかったし感動しました。

学校では、理科の授業の時にバディと友達2人とそれぞれの家を地図で探して見せ合うなど、沢山おしゃべりできて、全然英語を話せない私にも優しく接してくれて、すごく心地よかったです。彼らの優しい人柄に触れることができました。

この研修を通して、異文化に対する興味ももっと増した気がします。オーストラリアでの生活はとても充実していたけど、実際に過ごせた時間はとても短く感じました。そのため、今回行けなかったところに行ったり、もっと英語を上手に喋れるようになって自分の考えや思っていることを自分の言葉で伝えることができるようになったりしたいです。お店でレジに行った時に店員さんに"Hello"だけでなく"How are you?"と言われることが、日本ではないことなので、とても驚いてしまい、望ましい返しをすることが出来なかったことが心残りです。そのため、ポキャブラリーを増やしたり、英語を使う機会を増やしてみたりして、次は完璧に対応できるようになりたいです。完璧な英語を話すことは全然できないからこそ、相手が話している時に表情や相槌で反応することができたのは良かったのかなと思います。研修の後、フォーミュラ1という鈴鹿サーキットで行われたモータースポーツイベントで外国の方と話す機会があった時に、すごく英語がすんなり耳に入ってきたし、感謝を伝えるのも自然な英語でできた気がするので、今回の経験を活かすことができた気がしてとても嬉しかったです。小さなことでも、英語が関わるとちゃんと喋れるか少し不安に思う部分もありますが、自信を持って話さない相手も聞きとることができないと思うので、そのためにもこれからもっと努力しなければいけないなと思いました。



バディと授業



ホストファミリーとのお別れ



## 進路選択と将来

私がこの研修に参加した目的は今自分のもっている英語力を試し、異文化を体験することによって将来の進路選択に役立てていきたいと思ったからです。

私は高校を選択する時に西尾高校が英語に力を入れていることや、様々な留学の制度があるところに惹かれ入学することを決めました。だからこそ、10日間の短期留学の話聞いた時はすぐに両親に相談し、了承も得ることが出来ました。

8月18日出発日、不安はなく、ホストファミリーとの生活に胸を躍らせ、期待を抱えて中部国際空港に向かいました。長時間のフライトや、とても広いチャンギ国際空港など何もかも経験したことないことばかりで、心が踊りました。

ブリスベンでは、ホストファミリーが私のことをすごく歓迎してくれました。一緒にビーチに行ったり、念願だったフィッシュアンドチップスを食べたり、オーストラリアを満喫することが出来ました。ホストマザーのターラやホストブラザーのジェイミーとも話していくうちに打ち解け、質問されるだけではなく自分から質問したり趣味について話したりと、だんだんオーストラリアに馴染んでいくのが目に見えて分かりすごくやりがいを感じました。

現地の高校ではパディのマケイラと一緒に授業を受けました。生物の授業では高校で習ったDNAの塩基配列の授業で専門的な用語がたくさんあり、授業を英語で理解することの難しさを知りました。モーニングティーという中休みの制度はすごく面白くて、マケイラの友達とテイラーズウィフトについて話すなど、たくさん会話をすることが出来て本当に楽しかったです。また、LGBTQをテーマとした1年に一回のイベントが開催されていて、すごく盛り上がっていました。その日はみんな紫や虹色を服に取り入れていて、自由に自分を表現している姿に、日本とは違う文化のおもしろさを感じました。

私はこの研修で単に異文化を学ぶだけではなく、英語を話すことへの自信をもつことが出来ました。初めは伝わるか不安だった英語ですが、話そうと全力で伝える気持ちがあれば、文法がごちなくても伝わることを知って、伝えようとする積極的な気持ちが大事だと学びました。また、海外の方と円滑な接客をするグラウンドスタッフの方たち、オーストラリアで日本語を教えるカーロ、留学生を現地でサポートするジェシーとジェイミーなど外国語を使って働く



私のホストファミリー



ベジマイトとアボカドのトースト

様々な人に出会いました。自分がまだ知らないだけで英語に関わる仕事はたくさんあるんだと学びました。

私は来年受験生なので、大学や自分の将来に向き合っていないといけません。世界にはいろんな人たちがいることを肌で感じる事が出来ました。この経験から、私にとって「英語」は単に学校で学ぶ教科としてではなく、外国の方とコミュニケーションがとれるツールとして、これからも学んでいきたいと考えています。



## 語学研修での経験

私はこの10日間の語学研修で初めて親に頼らずに海外で生活をしました。私がこの高校を選んだ理由の一つでもある海外研修に今年に行けると聞いてすぐに両親に相談して、研修に行く許可をもらうことができました。5歳の時から9歳の時に親の仕事で4年間アメリカに住んでいたため、海外のことや英語にはとても興味があり、好きでした。ですが、それ以降海外に行くチャンスがなかったため、この語学研修をすごく楽しみにしていました。しかも、今回は親の手を借りずに生活することができるということだったので、自分自身を成長させることができるのではないかと、不安な気持ちよりも、ワクワクした気持ちの方が大きかったです。

ホームステイ先の家族とお会いした時、これからお世話になるので、迷惑をかけてしまうかとも思い緊張していましたが、最初から本当に優しく接して下さって安心してホームステイをすることができました。ホームステイをして思ったことは、わからないことがあったらすぐに聞いた方がいいということです。明日は何時に出発するのか、どこに行くのか、お風呂はどのくらいの時間入っていいのかなどです。私はわからないことや、興味をもったことなどをすべて聞くことができたので、会話が弾んでコミュニケーション能力が向上させることができ、何よりホストファミリーと仲良くなることができました。相手から話しかけてくれるだろうと思わず、自分から話に行かないと何も始まらないなと思いました。



ホストファミリーと出会った日

現地での英語クラスでは、英語を学ぶだけでなく、オーストラリアについても色々学べたり、みんなでゲームをしたりして、ここでもいろんな人と関わって自分から話しかけることへの自信につながりました。現地の学校で一緒に回ってくれたバディーにも、自分から会話をしようと思っていました。できる限り会話を続けようとしたら、バディーも遠慮なく話しかけてくれるようになってとても嬉しかったです。

やはり、自分から話すということがこの語学研修で1番成長した部分だと思います。これから相手が何を言っているのかわからない時や、上手く英語で返せない時でも、諦めずに言葉にしようと思えるようになりました。失敗をしていかないと何も成長しないなと感じました。

私は、この語学研修で自分の英語でのコミュニケーション能力に自信がつき、もっと知っている単語を増やしていきたいなと思うことができました。親抜きでの生活を通して自分はまだまだ親に頼ってばかりだということに気づくことができました。当たり前だと思っていたことが本当は当たり前ではなかったということに気づくことができ、この語学研修に行かせてくれたことやいつもやってもらっていることへの感謝の気持ちが強くなりました。そして、将来また海外に行きたという気持ちがさらに強くなりました。この経験を活かして、これからも英語の勉強を頑張っていきたいです。



## オーストラリア語学研修で学んだこと

私がオーストラリア語学研修に応募した理由は、中学生の頃から海外に行って自分の可能性、視野を広げたいという夢があったからです。私が通っていた中学校では海外派遣というものがあって、私はそれに必ず応募しようと思っていました。しかし、新型コロナウイルスの影響で中止になってしまい、それから海外に行く機会が中々ありませんでした。そんな中でオーストラリア語学研修のことを知り、絶対に参加したいと思い、応募しました。

事前学習やプレゼン発表などはとても楽しかったものの、周りのレベルの高さや自分の英語力不足に危機感を覚えて、語学研修が近づくにつれて不安な気持ちでいっぱいでした。そうした気持ちを抱えながら、初めてホストファミリーに会った時、緊張と不安と一緒にホームステイしていた友達と日本語で話してばかりで、ホストファミリーとはあまり上手く話せませんでした。また現地校生徒との交流も、私のバディは日本とのハーフで日本語が話せたので、最初は日本語ばかりで話していました。しかし、次の日になって私は、このままでいいのかなと考えました。私はなんの為にオーストラリアへ来たのかをもう一度考えました。自分の英語力に自信がなくて、自分から積極的に話しかけられなかったりしていたけれど、それでは視野や可能性を広げることは出来ないと感じました。そこからはバディとも英語だけで喋るようにしました。最初はバディが紹介してくれた友達とランチタイムで上手く話せなかったけれど、自分から話題を振るように心がけることで、話がとても盛り上がりました。そして、ホストファミリーとも、一緒にホームステイをしている友達がシャワーをしている時に、自分から話しかけて沢山お話をしました。今まで自分の英語に自信がなくて上手く話せなかったけど、1時間も会話が続いて、またホストファミリーに英語について凄く褒められて、自分の英語力に少し自信がもてるようになりました。最終日には、現地校での授業の内容が理解できるようになってすごく嬉しかったです。最初は不安で、不安で仕方がなかった語学研修が、最後はオーストラリアに住みたいと思うほど充実した思い出になりました。そしてこんな素敵な人たちと巡り会えて本当にこのプログラムに参加して良かったと実感しました。

オーストラリアで過ごしたのはたった7日間でしたが、今までで1番成長することの出来た1週間だと感じています。1番心配していた英語での会話も、自信をもって自分から話しかけることでこんなにも繋がるということに驚きました。そのため、これからもっと英語力を磨き、海外で活躍出来るような人材になりたいし、様々な人種の方とコミュニケーションを取れるようになって、多様な価値観を身に付けたいです。



ホストファミリーとのお別れ



## オーストラリアで実感できたこと

私は文化の違いなどを体感したくてオーストラリア研修に参加しました。

予想通り日本との違いはたくさんありました。特に、実際に行かなければ分からなかったことがあります。時間がゆったりと流れるということです。課題などがなく、何かに追われることがなかったということもあります。日課が違うのが大きいと思います。日本では7時間授業があり、ほとんどの生徒が部活動に参加し、家に帰るのが19時を過ぎたりしますが、オーストラリアでは5時間授業で部活動もなく、15時くらいには家に帰ります。そして、水曜日はハーフデイで12時くらいには家に帰れます。私は部活が好きで、新しいことを始めるチャンスだと思うので日本の部活動はいいと思っています。しかし、オーストラリアでは自分の時間がたくさんあり、やりたいことができるので、それもいいと思いました。また、お店も18時くらいには閉店するので働いている人も早く帰れ、家族と過ごす時間もつくれるので、とてもいいと思いました。

私はホストファミリーとビーチに行ったり、買い物に行ったり、一緒にご飯を作ったり、平日でもたくさんの時間をホストファミリーと過ごせました。そして、自然がたくさんあるところに行くのがリラックスできるので、自然がたくさんあるのも、ゆったりと時間が流れるように感じる理由の1つなのかなと思います。道路のそばにはたくさんの木があり、森かと思うほどでした。そのため、学校へ歩いて行った時でも木陰ができて涼しかったです。また、家の庭もひろく、いろいろな植物がありました。夜は星が綺麗に見えました。植物がたくさんあるのでたくさんの鳥がいて綺麗でした。また、カンガルーやコアラも時々見かけると言っていました。

私は、今回の研修で初めて長時間英語に触れ、喋りました。始めは、自分の英語が通じるか不安でしたが、私が話しだすと、一生懸命聞こうとしてくれて、会話を続けるうちに、どんどん楽しくなっていました。一生懸命聞き、リアクションをし、質問してもらえると嬉しいのは、日本語で話していても同じです。何語で誰と話そうと、会話をする中で大切にしないといけないことは変わらないと実感しました。私は、特にリアクションを大切に、笑顔でいることを心がけました。また、どのように会話を始め、続けるか、などのコミュニケーションスキルはとても大切だと実感しました。どれだけ会話をしたくても会話を持ちかけないと会話が始まりません。私は、話題を持ちかけるのが苦手ですが、たくさん会話をしたいと思っていたので、写真を見せて、会話を始め、質問をするようにしました。

英語は使うために学ぶと思いますが、授業だとあまりそれを実感できていませんでした。英語は世界共通語なので、英語を使うことで、いろいろな人と繋がることができると思います。今回、言うことが分からなかったり、伝えたいことが伝え切れていなかったりすると感じたことが何度もありました。よりスムーズにコミュニケーションをするために、これからも英語を学んでいきたいです。



ホストファミリーとビーチ



ホストファミリーとお友達と  
映画鑑賞



## 語学研修が教えてくれたこと

私がこの研修に参加しようとしたきっかけは、日本以外の国の文化を知ることや海外の国の人々と日常的な会話などをする中で今後の英語力の向上や社会に出た後で役立つことを考えたからです。10日間という短い日程だとしても、現地の英語圏で英語を聞き、そして話すということは今後の英語力の向上に役立つと考えました。

実際参加が決まったのはまだ出発からかなり前の事だったので、実感がわかかなかったけれども、7月や8月に入ると、自分の英語力など現地での不安がかなりありました。

今回の研修に参加して感じたことは、まず日本とオーストラリアとの学校生活の違いです。国土の差というのもあり、学校の広さが違うのは当然の事と思っていましたが、日本では先生がクラスを移動するのに対して、オーストラリアでは生徒自身でクラスを移動し、授業を受けるというものでした。さらに、日本のように必修授業があるという訳ではなさそうで、自分の受けたい授業を受ける自由な雰囲気でした。実際に、私や友達も必要ないと感じる授業は日本ではありますし、オーストラリアの学校の方が自分にはあっていると感じました。日本の自由度の低さを感じました。

次に感じたものとして、環境と街のつくりについてです。日本には林、森というものを考えると平地ではなく山の方が多いです。しかし、オーストラリアは山だけでなく、道沿いだったり家の前がすぐに木がたくさん公園になっていたりと、緑が日本よりも確実に多いです。さらに都市部は発展しているけれど、そこを出ると直ぐに郊外のような雰囲気になる。東京や大阪のように都市部だけの街と違い、近距離で都市部と郊外を感じられる場所で、同じ州でもギャップが大きく面白いと私は感じました。

今回の研修を通して、自分たちの公用語以外の言葉で会話をする楽しさと世界の文化の違いを改めて感じさせられました。私はホストファミリーに初めて会った際、自分の英語の会話する力が欠けていたのもあり、自主的に話したり出来ず、向こうから話しかけてくれるのを待つという受動的な態度になってしまっていました。しかし、1日、2日と経つうちに上手く英語で伝えることが出来なかったとしても、ジェスチャーや単語のみでも意味は伝えることができ、少しずつ無意識のうちにこちらから話すことができるようになっていました。外国人が日本を訪れた際に上手く日本語を話せなかったとしても、相手とコミュニケーションを取



お家でビリヤード



ホストファミリーとのお別れ

るとカタコトの言葉で話すのと同じように、まずはコミュニケーションをとるといふことの大切さを忘れないことが、会話をしていくということに欠かせないことだと強く感じる機会となりました。

最後の日には「たった10日間」と感じる程短い期間だったけれども、研修前とは比べ物にならないほどの、他言語学習の面白さと大切さを学ぶことができ、このような機会を作ってくださった先生や、関係者の方、そして笑顔で送り出してくれた家族に感謝しかありません。このような人達があつての研修であつたということをお忘れずに今後の英語学習、そして大学入試や今後の人生に活かしていきたいと思っています。今の自分をつくってくれた先生、現地の方々、家族に心から感謝します。ありがとう。



## オーストラリアで学んだこと

オーストラリアに行く前まではあまり英語に自信がなく、研修中うまくやっていたか心配でした。しかし、いざ現地へ着いて生活してみると、初めは不安であまりうまくコミュニケーションがとれなかったものの、2日経ったあたりでコミュニケーションにおいて大事なものは英語力よりも、とにかく積極的かつ親切になることだと分かり、そこから急に過ぎやすくなりました。

僕が出会ったオーストラリアの人達はみんな優しい人ばかりでした。英語があまり喋れなくても頑張って伝えようとすればちゃんと聞いて受け止めてくれるため、英語力は気にせず、とにかく積極的にやってみることがいいと学びました。ホストファミリーは、僕たちの行きたいところに連れて行ってくれたり、食べたいものを食べさせてくれたり、家でやりたい事や学校の話などをよく聞いてくれたりもしました。僕にとって、優しくて最高のホストファミリーだと思いました。また、学校の人たちも優しい人が多いと感じました。バディの人はさりげなくお菓子をくれたりもしましたし、初対面の時からよく話してくれたりもして温かい人でした。バディ以外の生徒の人たちも急に話しかけても自然に会話してくれ、フレンドリーな人や面白い人たちばかりだと感じました。西高生みんなモールにショッピングに行った時も、お土産屋さんやレストランの店員さんもきさくに話してくれたり、写真を撮ってくれたりしてうれしかったです。オーストラリアはとても優しく温かい人が多く、心地よい国だと思い、住んでみたいとも思いました。

また、オーストラリアのゆったりとした空気感も感じる事ができました。特に通っていた現地の学校のゆったり感には衝撃を受けました。例えば、授業が1日に5コマしかなかったり、遅刻をしても全く怒られなかったり、授業の終わり際に用具を片付けるなどの日本では怒られることも全く気にされていない感じで驚きました。なんとといっても、先生と生徒の年齢差がある関係でも、遠慮や気遣いもなく仲良く接していて、上下関係があまり関係ない感じだったので、驚きと同時にいいなとも思いました。僕はこのゆったりした感じが好きで、とても過ぎやすかったです。

僕は研修前から、オーストラリアにはたくさんの異なる文化的背景をもつ人たちが住んでいるということを知っていて、現地ではどのような雰囲気なのかとても気になっていました。実際に見てみたら、現地の人々は出身国が違うことを気にせず接していて、自然な感じに見えたことが印象的でした。また、ジェンダーについてはタブーがないようなカジュアルな雰囲気でもとても驚きました。個人的には、タブーを気にしてお互いにその話題に触れづらいうよりは、冗談で言い合えるぐらいの方がいいのかなとも思いました。

僕はオーストラリアの留学で、特に積極性を身につけられたと思います。また、民族多様性やジェンダーのことについても新しい視点で見ることができてグローバルな自分になれたと思っています。今回の研修を通して、オーストラリアの人々の温かさや文化に触れ、オーストラリアで生活してみたいとも思ったので、このような経験を今後活かしていきたいです。



ホストファミリーとビーチ



## Change yourself

私がオーストラリア研修に参加したかったのは、普通の海外旅行では経験できないことがたくさんあると思ったからです。正直それまで海外に行ったことがなく、不安な気持ちはありましたが、挑戦することで何かが変わる、そんな気がしていました。

私がオーストラリアで10日間頑張れたのはホストファミリーの存在がとて大きかったです。最初は会話が続かなかったり、自分の言いたいことが上手く伝わらなかつたりして、とても悩んだし、日本に帰りたいと思う時もありました。それでもホストファミリーがたくさん話しかけてくれて、私ができるように話し方を工夫したり、話題を提示してくれたりしました。オーストラリアについてたくさん教えてくれたし、いろいろ



ホストファミリーとビーチ

なところに連れて行ってもらい、日本では見ることのできない景色を見せてくれました。また現地の高校に通ってみて、日本の高校とは全然違うことにびっくりしました。生徒自身が自分の学びたい授業をとり、自分達で授業を作っている感じがしてとても興味深いと思いました。私は日本人が全くいないクラスで授業を受けたので、変な目で見られないか不安でしたが、笑顔で声をかけてくれる人がたくさんいて、とても安心したのを覚えています。ランチタイムのなどではオーストラリアの高校生がどんな感じなのか詳しく知ることができて、日本の高校生との違いなどを見つけることができて、とても楽しかったです。

私がこのオーストラリア研修を通して学んだことは、言語の壁なんて存在しないということです。気持ちが伝わらないからといって、話す努力をやめてしまえば一生相手と会話をする事ができません。間違えてもいいから話してみようとする事で自分の中で勝手に作られた壁がなくなると思います。同じ言語を喋っている日本人同士でさえも喋るときにいろいろ考えてしまって会話ができないときがあるのだから、言語が違う人なら伝わらないことがあるのはしょうがないと割り切ってたくさん話したほうが自分、そして相手のためにも良いと思います。また、日本人はもっと自己主張しても良いのではないかなと感じました。オーストラリアに行ってみて気づいたのは自分の意見をしっかり相手に伝えているということです。好きなら好き、嫌いなら嫌い、どっちでもいいなんて言葉は聞きませんでした。その点、日本人は、自分もそうですが、相手にどう思われるのが怖くて、はっきり言えない人が多いのではないかと思います。ですがオーストラリアで YES, NO とはっきり伝えられるようになったため、日本でもちゃんと自分の意見を伝えられるよう、努力しています。



ホストファミリーとバーベキュー

10日間という、短い期間の中で英語力が前よりもすごく上達するなんてことは難しいですが、そのおかげで自分がまだまだということに気付かされ、もっと英語で話せるようになりたいという欲が沸きました。日本でも英語の勉強はできるので、自分のできることをして、必ずオーストラリアにカムバックして、次はもっと現地の人との会話を楽しめるように頑張ります。

I love Australia. Someday again.



## ここが私のアナザースカイ

私は家族と海外旅行に行ったことがあります。その経験を通していろいろな国に興味があり、中学生の時に語学研修に行ってみたくて考えていましたが、コロナで中止になりました。そして、高校2年生になりやっと募集がありました。そもそも語学力に自信がなく、ホームステイも不安、サッカー部の合宿も行けなくなると思うと乗り気がしません。しかし、母から、西高から海外に引率してもらい現地校に通学できるなんて貴重、十代での経験は必ずや将来の糧になる、と熱弁されて、次第に私も感化され、やはり行こうと決意しました。

出発前まで思うように勉強ができず不安もありましたが、これから始まる未知の世界にワクワクがとまりませんでした。いざ、現地に行ってみると、ホストファミリーや学校のバディにも恵まれて、とても楽しく、充実した毎日を送ることができました。

私は今回の語学研修で心に残ったことが2つあります。

1つ目はオーストラリアの高校と西尾高校の授業スタイルの違いです。西尾高校では生徒はクラスに所属し、全員決められた授業を受けますが、ナランガ高校では生徒はクラスに属さず、自分でカスタマイズした教科の教室に移動します。また、日本のように一日中座りっぱなしで詰め込み式の授業ではなく、アニメ制作やプログラミング、工業などの仕事に直結するような科目もあり、下校時間も早く、アルバイトをしたり、生徒が自分のペースで伸び伸びと生活したりしていてとても魅力的でした。私には合ったスタイルだと感じましたし、いろいろな意味で日本の教育はまだまだ遅れていることを痛感しました。

2つ目はホストファミリーと過ごした時間です。滞在中、魚好きの私を釣りに連れて行ってくれたり、プールサイドでBBQを振る舞ってくれたり、一緒に映画を観たり、犬を散歩したりとまるで家族のように接してくれて、夢のようなひと時でした。ホストファミリーにはとても感謝していますし、出会いを大切に絶対また会いたいと思います。

私は、語学研修を通して英語を話せる楽しさや語学力の大切を学びました。最初はHelloなどの挨拶や受動的な受け答えしかできませんでしたが、生活するにつれて段々と自分から質問や発信ができるようになりました。時にはわからない単語もありましたが、調べたり、みんなに教えてもらったりすることで知識となり、次には話せるようになり、アウトプットやコミュニケーションの大切さを体感しました。この経験を通して、自分の主体性や学ぼうとする意欲をこれからの高校生活にも活かしたい、そして、いつの日かオーストラリアはもちろん、様々な国に行き、英語を使っている人々とコミュニケーションを取りたいと思いました。

今、かつての自分のように、不安で語学研修に行こうか迷っている人、それに限らず、自分に自信がない人に伝えたい。勇気をもってチャレンジして欲しい。失敗も成功も経験は絶対に糧になる！今回の語学研修が私に与えてくれたもの、それは「自信」です。最後に、私に参加のチャンスを与えて下さった先生方や両親に心から感謝しています。



ホストシスター



ホストファミリーと海



## カラフルな思い出

高校になってから英語のポキャブラーは増し、より英語を知ることができて楽しくなった一方で、海外の人とのコミュニケーションの機会が中学より少なくなっていました。また、世界の民族や文化、問題について興味をもっており、海外で生活したいと思っていました。そこで、10日間という短い時間だが、たくさんコミュニケーションをとり、知識を活用したり深めたり、貴重な経験ができると思い今回応募しました。

ホストファミリーやパディはとてもフレンドリーで、質問に丁寧に答えてくださり、さらに詳しく様々なことを教えてくださいました。現地の人しかわからないこと、オーストラリア英語、スポーツや野生の動物と人の向き合い方などいろいろ教えてもらい、とても面白かったです。朝から夜までにぎやかで、楽しい充実した時間を過ごせたとともに、新しい単語やスラング、よりカジュアルな日常会話を学ぶことができました。ホストファミリーと最終日に野生のコアラの家族やジュゴンに出会えて、とてもいい最後の一日となりました。店員やすれ違う人、全く異なる学年の人も優しく気楽に挨拶や声をかけてくれ、とても嬉しかったし、いい文化だと感じました。

日本との違いは、教育やプラスチックによる環境への配慮、人とのかかわり、ジェンダーや動物、先住民族を尊重し、発信する点であると考えました。タブレットを常に用いて、困ったら調べたり、友達に聞いたりして、授業でさえ苦しい雰囲気もなく、先生方も優しく、のびのびとしていて、とてもいい教育だと感じました。今回の経験からいいなと思ったことを、自分でもどんどん取り入れていきたいと思います。追究することは、やはり大切だと感じました。そこで帰国後にコアラのことについて調べました。絶滅の危機を作ったのは間違いなく人間で、考える責任は日本人にもあると考えました。自分は生物選択だから、将来環境や動物を教えるような研究をして、海外にも発信できたらなと考えました。

オーストラリアはとても自由でほのぼのとしており、多くの個性豊かな人柄や平和できれいな自然があり、アボリジニ文化や動物を尊重し発信し、守る姿にとっても感動しました。大学で特に印象に残ったのは、性別や国籍だけでなく、どんなアクセントでも受け入れるという看板があったことです。オーストラリアの多様性に対する考え方は日本も見習うべきだと考えました。

今回の価値のある経験から自信を持って話したり行動したり、決断することはとても大切だと感じました。曖昧にぼそぼそと話しても伝わりません。自分の意見をしっかり持ち、伝えようと目を見て話すことが必要だと考えました。いいなと思ったことは素直に褒める、感謝し、会話を深めること、そして家族や友達、人と繋がりを固く、大切にしたいと感じました。本当にオーストラリアでたくさんのいい人と出会えてよかったです。



With my host family